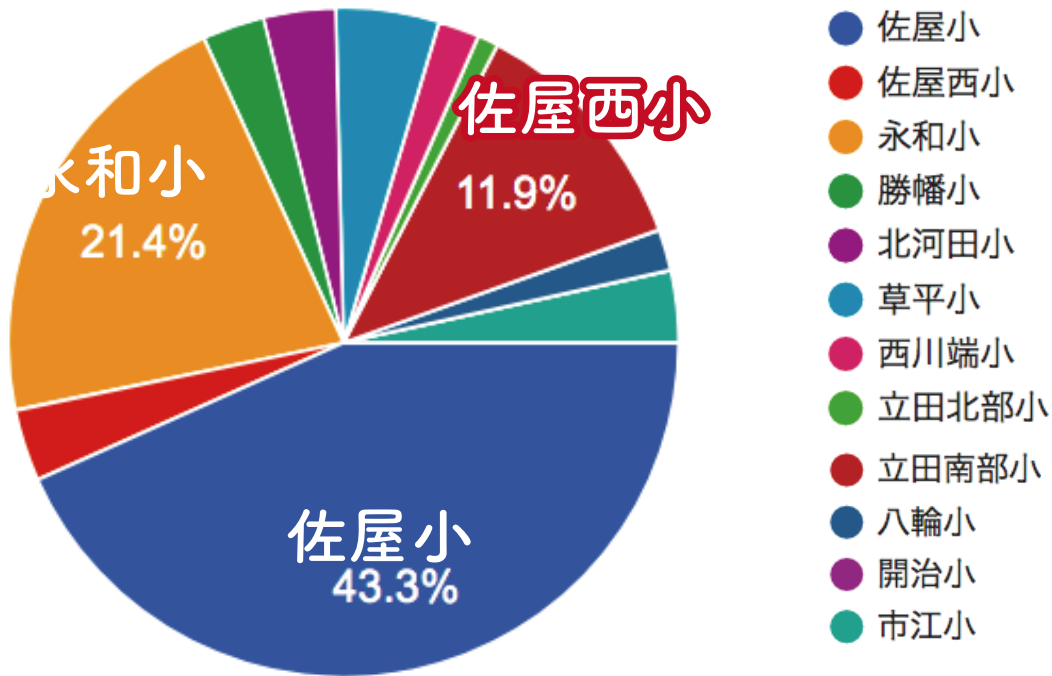
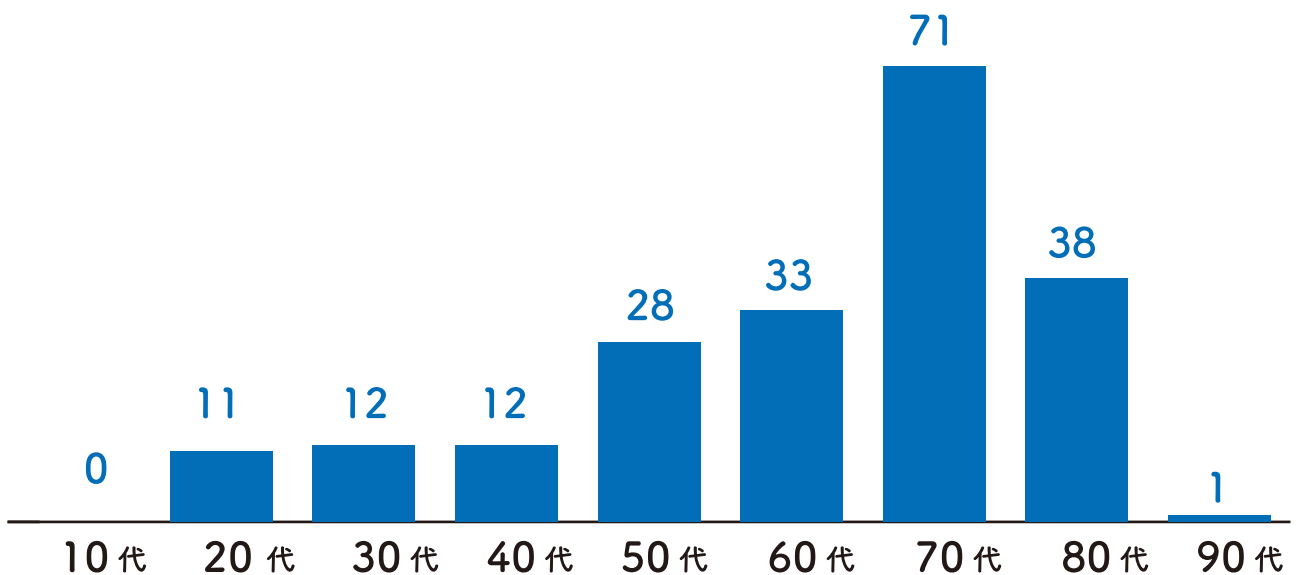
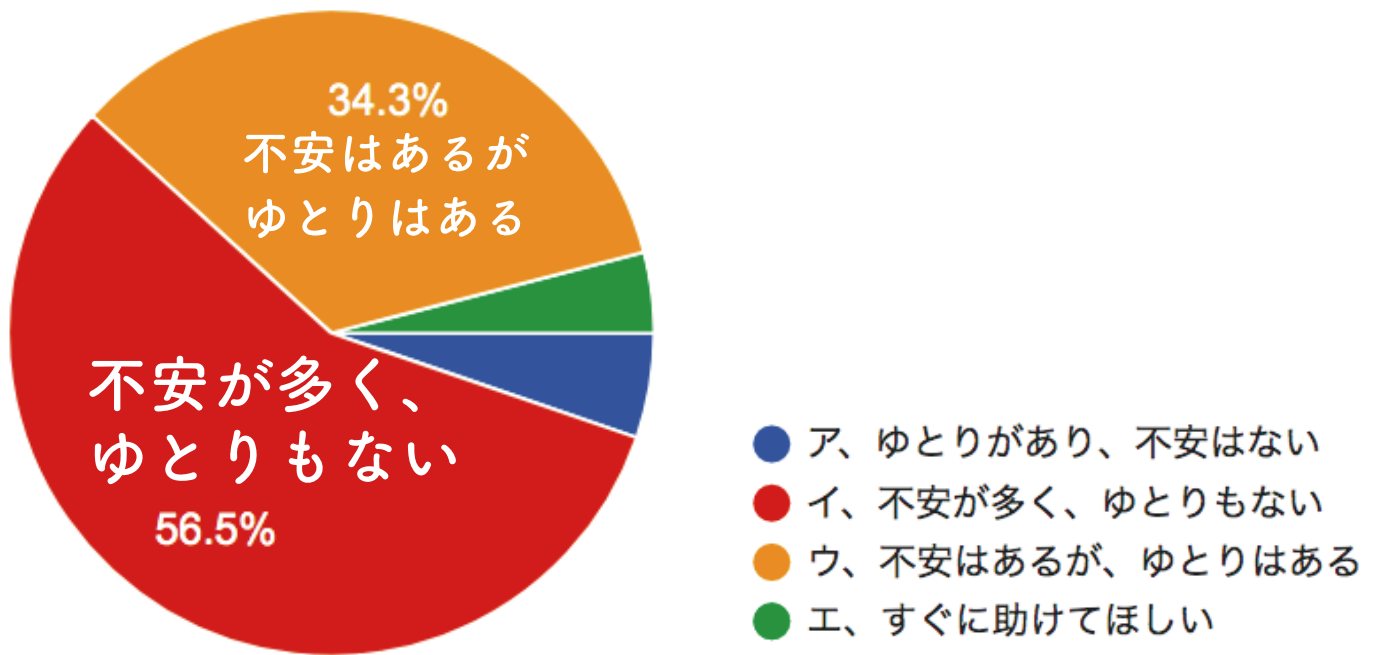


学区別 (学区表記あり 201)



年齢別 (表記あり 209)





カテゴリ別・お困り事の集計

① 生活経済・家計の圧迫（最も多い声）

- ・物価高騰：食料品や日用品の値上がりで生活が苦しい。年金が増えない。
- ・公共料金：上下水道料金が非常に高い（特に接続後の大幅な値上がり）。
- ・支援策への不満：近隣市町で行われている「プレミアム商品券」の発行が愛西市にはない。

② 交通・移動の困難（高齢層に集中）

- ・巡回バスの不便さ：本数が少ない、待ち時間が長い、バス停が遠い（山路町、草平台など）。
- ・免許返納後の不安：車に乗れなくなったら生活が成り立たない。
- ・タクシー代の負担：通院時のタクシー代が高額。補助を若年層（55歳～など）から広げてほしい。

③ 高齢者・一人暮らしの孤独と不安

- ・緊急時の対応：急な体調不良時に誰が助けてくれるのか、発見されるのかという恐怖。
- ・生活支援の不足：掃除、洗濯、溝掃除など、体力の衰えでできなくなる作業への支援。
- ・相談相手の不在：孤独感、話し相手がいらないことによる精神的な不安。

④ 市政・行政サービスへの不満

- ・税金の使い道：「ハズパーク」や「道の駅」など、自分たちの生活に直結しない箱物行政への批判。
- ・行政のデジタル化不足：市役所のWi-Fi未設置、手続きのオンライン化の遅れ。
- ・公平性への疑問：外国人への支援や、特定の年代（子育て支援のみ）への偏りに対する不公平感。

⑤ 住環境・インフラの劣化

- ・道路状況：冠水、街灯の不足、歩道の欠如、雑草の放置、側溝の劣化。
- ・近隣トラブル：農地の管理不足（害虫）、香害（洗濯物の柔軟剤）、ゴミ問題。

特に注目すべきトピック（ピックアップ）の集計

■「子育て支援」と「高齢者福祉」のギャップ

多くの高齢者が「市は子育て支援ばかりに力を入れている」と感じており、世代間での行政サービスの不公平感が強まっています。「自分たちはもう先が見えているからいいが、若者は……」という諦めと、「老後を支えてほしい」という悲鳴が混在しています。

■「山路町」や「草平台」など、特定地域の空白具体的な地名を挙げて「バス停がない」「溝掃除が辛い」と訴える声があります。広大な面積を持つ愛西市において、**中心部と周辺部でのサービス格差（移動の足の確保）が限界**に達している様子が伺えます。

■「500円／月で命」に象徴される、セーフティネットの不信

一人暮らしの高齢者が急病で救急搬送された際、鍵がかかって入れなかった具体的なエピソードが寄せられています。自治会や市による見守りシステムが、現場レベルで十分に機能していない、あるいは有料であることへの抵抗感が強いことが分かります。

■ 浄化槽から下水道への切り替えによる負担増

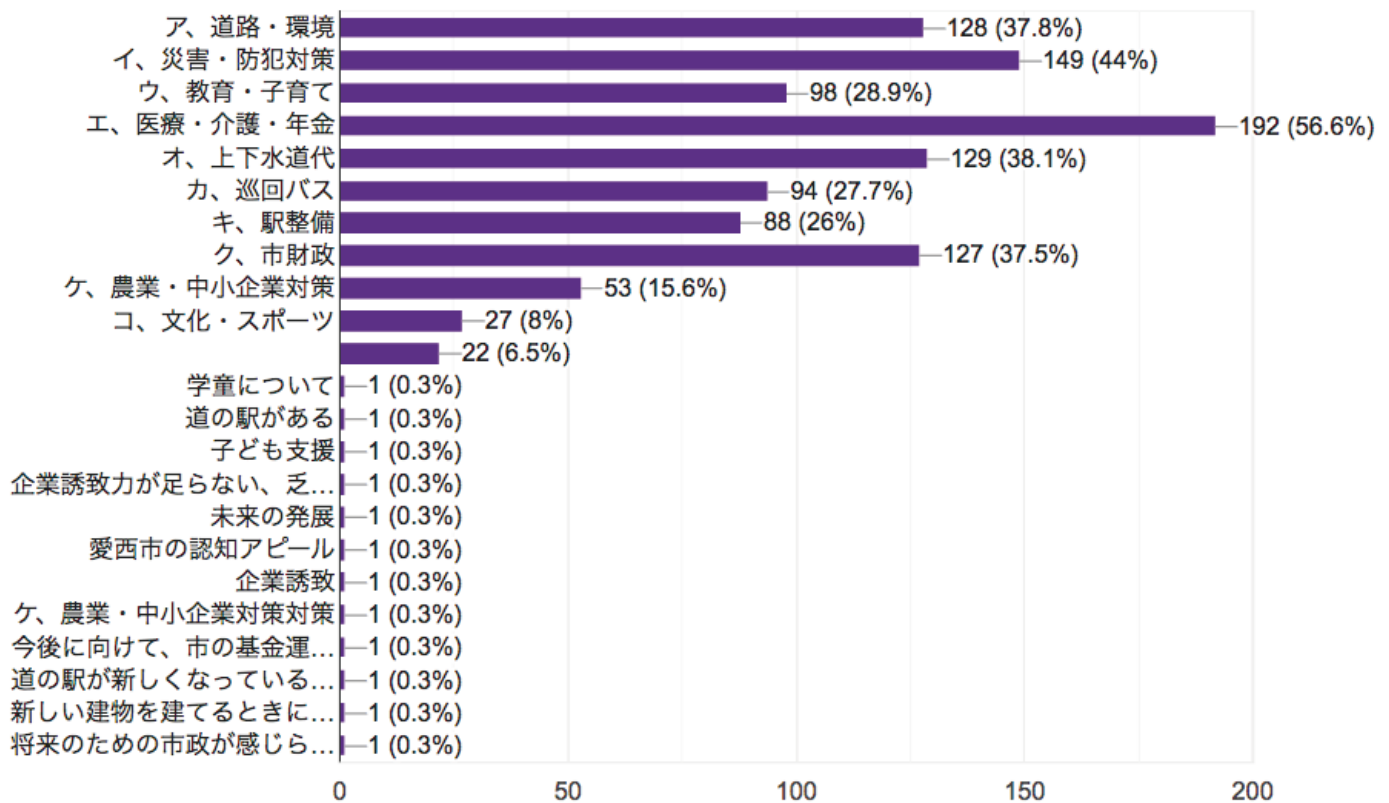
上下水道代が数倍になったという訴えが複数あります。物価高の中で固定費が増えることは、年金生活者にとって死活問題となっており、基本料金の減免などの具体的な救済措置を求める声が根深いです。

まとめ・分析

このアンケート結果からは、「**孤独死への恐怖**」と「**経済的な閉塞感**」が二大潮流として見て取れます。また、近隣の弥富、一宮、津島、稲沢といった他市との比較が頻繁になされており、愛西市の行政サービスが相対的に「遅れている」「市民に還元されていない」という強い不満に繋がっています。

問2 市政で関心のある（課題だと感じる）ことは？ 総数 339 件

（いくつでも可）



市民が課題と感じる点の集計

愛西市の多岐にわたる切実な要望（インフラ、福祉、教育、防災、市政への不信感など）があり中でも、「土地改良区の川沿いの除草問題」への対処法と、「市政への市民の声を届ける戦略」について、法的な視点や行政の仕組みを踏まえたアドバイスを整理

1. 鵜戸川沿いの除草問題（土地改良区・慣習）への対策

「昭和 27 年からの慣習」を理由に、住民に無償労働とリスクを強いる現状は、現代の公衆安全や労働の考え方から見て非常に問題があります。また川が「準用河川」や「普通河川」であれば、本来の管理者は市や県です。土地改良区が管理を委託されている場合でも、その管理費（賦課金）を住民が払っている以上、実労働まで負担させるのは「二重負担」です。

安全配慮義務の欠如：「作業中の事故の補償がない」状態で住民に作業をさせるのは、万が一事故が起きた際、管理主体（土地改良区や市）が損害賠償責任を問われる重大なリスクがあります。

具体的なアクション案：

「公開質問状」の提出：総代を通じてではなく、土地改良区の理事長宛、および監理監督責任のある愛西市（建設部や農政課）に対し、書面で質問を出します。「事故が起きた際の責任所在」「賦課金の使途明細」「他地域での機械化・委託化の状況」を問います。

県への相談：土地改良区を指導する立場にあるのは「愛知県知事（農林水産部農林土木課など）」です。市の窓口が動かない場合、県の出先機関（海部農林水産事務所など）に「過酷な慣習による住民負担の実態」を相談してください。

問2 市政で関心のある（課題だと感じる）ことは？ 総数 339 件

（いくつでも可）

2. 市政・予算（道の駅・有価証券運用）への監視と対抗

50 億円の道の駅建設や基金運用の損失に対する不信感は大変大きい。

- ・基金の運用損失が市民サービスの削減とどう関わっているかを具体的に明らかにする
- ・共産党市議団として追及し、具体的行動を見える化する
- ・市民サービス向上の対案を示す

その他「道路工事の費用感の不透明さ」については、情報公開請求を行い、単価や業者選定のプロセスを市民団体として分析し、広報等で「市民にわかりやすい比較表」として提示するなど

3. 福祉・教育・防災への具体的な提案（まとめ）

【即時対応が必要な「命」に関わる事項】

●最優先事項：学校・体育館の雨漏り・エアコン設置など「子どもの安全・健康」は最優先。
「道の駅の予算を一部流用すれば今すぐ直せる」などの打ち出し

●避難所の高台確保：海拔ゼロメートル地帯での避難タワーや人工高台の設置は、防災予算として国からの補助金も出やすいため、具体的な設置場所を住民側から提案するなど

【生活の質と直結する「インフラ」事項】

- ・上下水道代の減免・抑制：近隣他市との比較データ（愛西は県水値上げの影響？）
- ・基金運用損が住民サービス（水道代）に跳ね返っていないか追及。
- ・巡回バスの再編：「利用者が少ないから廃止」ではなく、拡充の運動を

4. 地域コミュニティと孤立対策

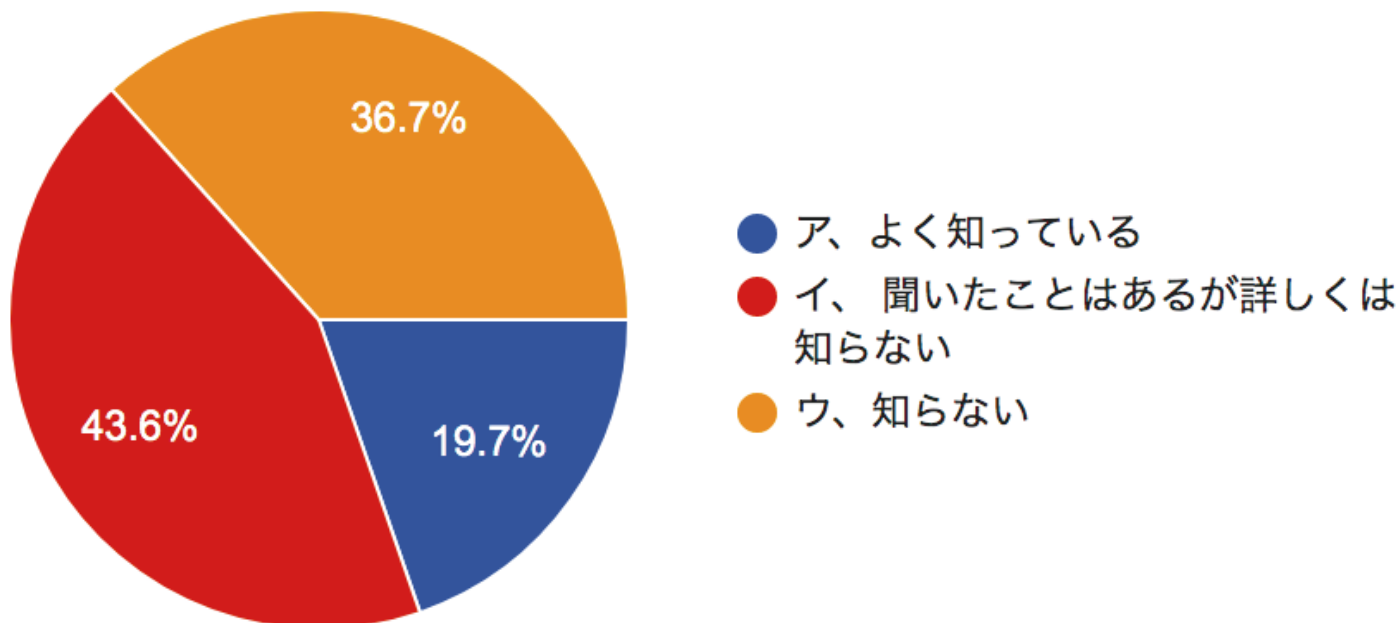
ご近所での安否確認：具体的取り組みの有無

寄せられた多彩な要望

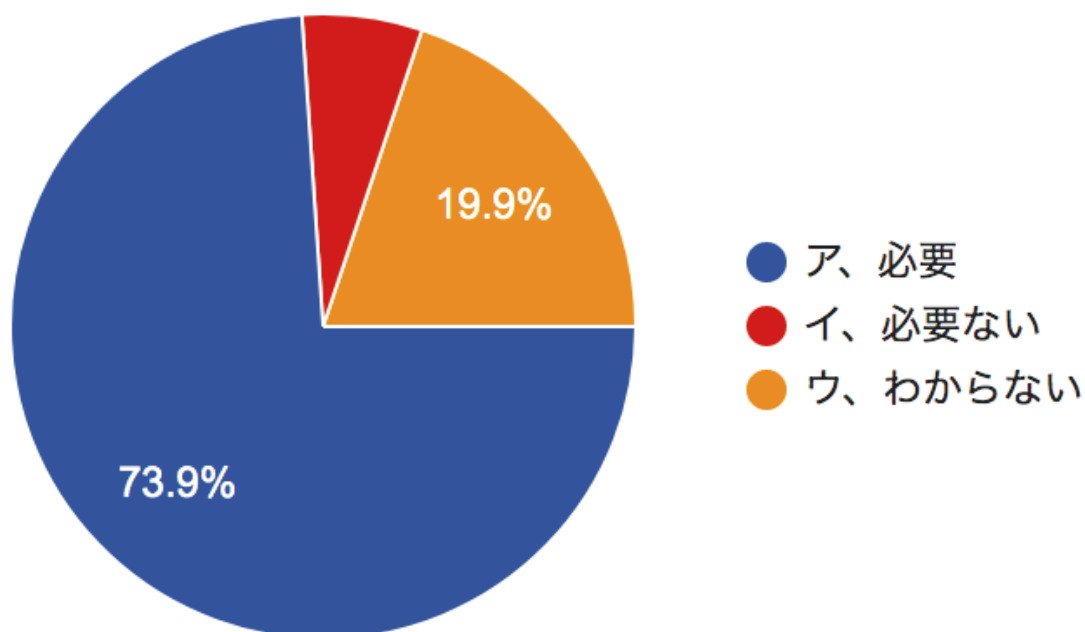
市民が具体的な改善点（駅の改札、歩道、トイレの洋式化、奨学金など）を挙げている

問3 市の基金運用の含み損について

- ① 市は、基金（貯金）の約8割を国債などの債権で運用し、国債価格の低下で約26億円の含み損があることが明らかになりました。あなたはどのくらい知っていますか。総数 330



- ② 日本共産党市議団は、第三者委員会を作って問題を究明し、市民に説明するよう求めています。第三者委員会の設置は必要だと思いますか。総数 322



問3 市の基金運用の含み損について

意見の集計

流動性の欠如：基金の約8割（約100億円以上）が長期債券に投資されており、災害時や住民サービスに今すぐ使える「現金」が不足している。

含み損の拡大：金利上昇局面により、保有債券の評価額が下落。現時点で約35億円とも言われる含み損が発生しており、将来的な財政への悪影響が懸念される。

チェック機能の不全：議会や監査が機能しておらず、意思決定のプロセスや責任の所在が不透明である。

1. なぜ「含み損」が問題なのか債券は、一般的に「満期まで持てば元本が戻る」と言われます。しかし、愛西市のように基金の大部分を長期（30年など）の債券に変えてしまうと、以下のリスクが生じます。塩漬け状態：途中で売却しようとする大赤字（含み損の現実化）になるため、動かさない。機会損失：本来、子育て支援や老朽化した公共施設（廃校再利用など）に使えるはずのお金が、数十年間「数字上の書類」として眠ることになります。金利上昇リスク：市場金利が上がれば上がるほど、低金利時代に買った古い債券の価値は下がります。

2. 他の自治体との比較多くの自治体では、基金の運用は「安全性」と「流動性（すぐ使えること）」を最優先します。一般的な運用：普通預金や、1～5年程度の短期・中期債券で回るのが通例です。愛西市の特異性：基金の約8割を長期債券に投入している点は、他の自治体と比較しても極めて異例であり、「公金の運用」としては極めてリスク管理が甘い（または硬直的である）との指摘は免れません。

3. 今後必要なアクション皆様から寄せられた「第三者委員会の設置」や「情報の透明化」を実現するために、以下のステップが議論の焦点となります。項目具体的な内容実態説明誰が、いつ、どのような判断でこれほどの長期債券を購入したのか、決定プロセスの公開。出口戦略の策定満期まで待つのか、損を覚悟で一部現金化し住民サービスに回すのか、専門家による検証。監視体制の強化議会によるチェック機能の回復と、市民への分かりやすい財務状況の報告（広報の改善）。責任の明確化運用方針を決定した当時の責任者（市長、会計管理者等）の判断に過失がなかったかの検証。

日本共産党議員団など4議員提案

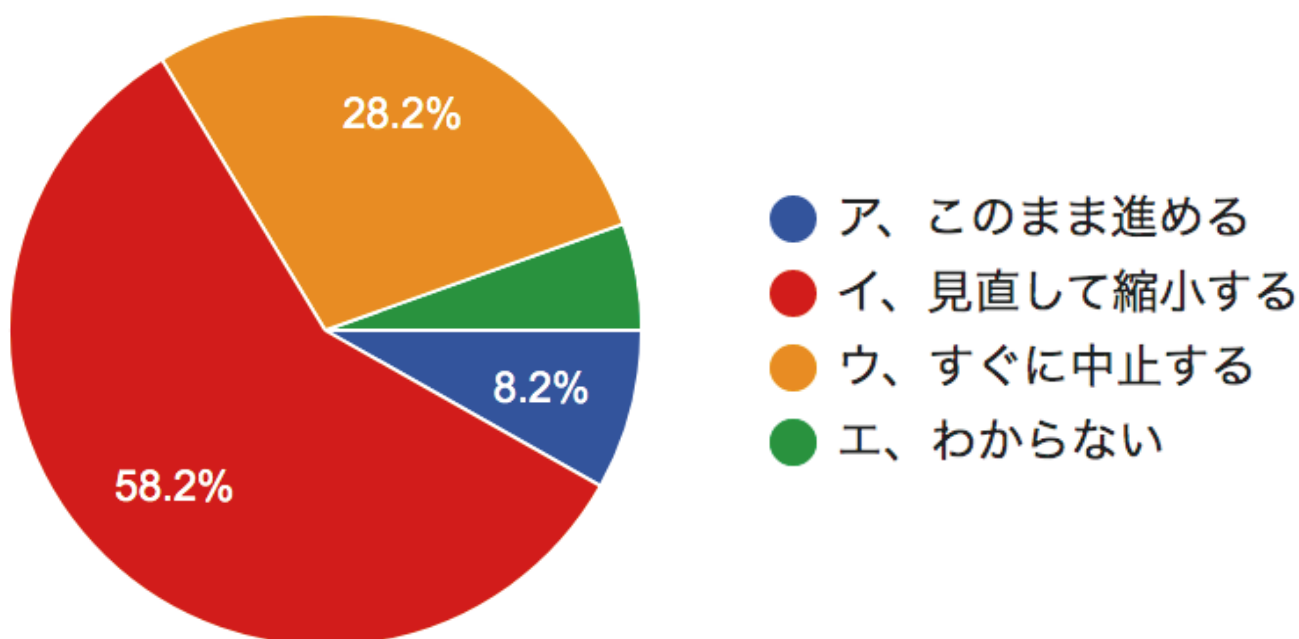
債券問題第三者委員会調査検証委員会設置を求める決議案 反対多数で否決

賛成：河合克平・真野和久・角田龍仁・永田千佳・吉川美津子

問4 「道の駅」の再整備について

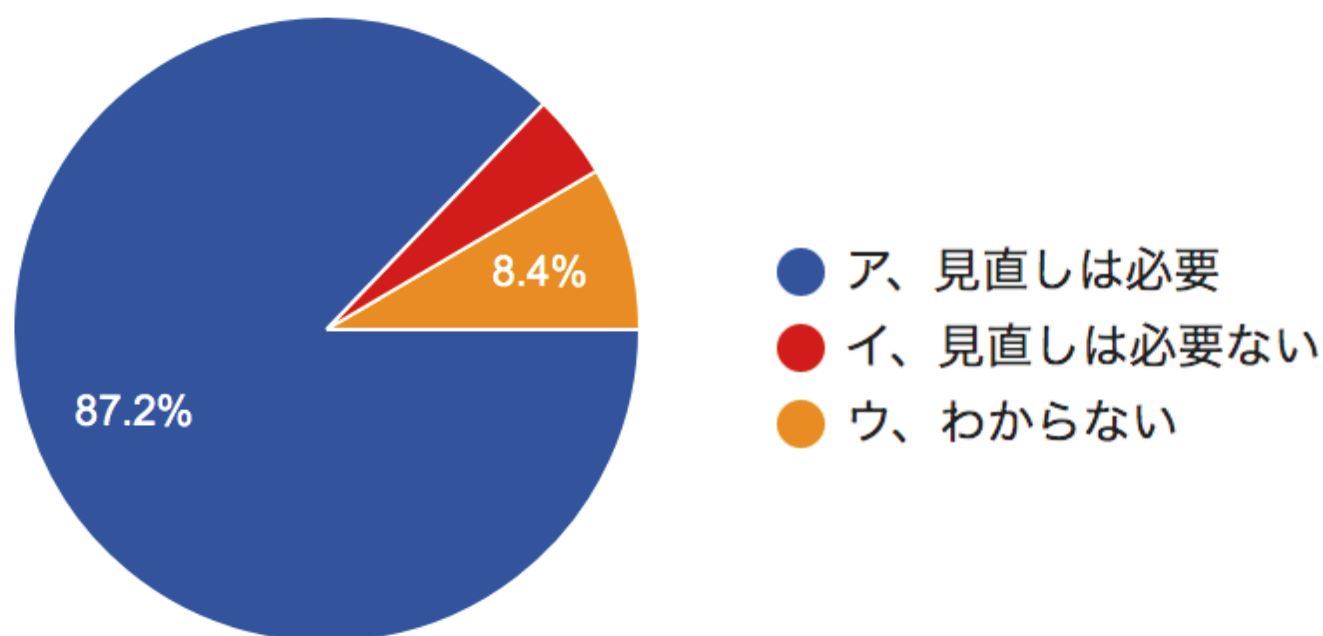
① 立田道の駅の再整備費（東公園を含む）は、当初計画を大きく上回り、50億円を

総数 330



② 日本共産党市議団は、費用を抑えるために、公園施設拡張や指定管理の見直しを求めています。あなたはどう思いますか。

総数 320



「道の駅」再整備事業に関する市民の意見まとめ

1. 予算と意思決定の妥当性に対する疑念

- ・ 予算の膨張：当初計画の約 40 億円から 50 億円へと大幅に増額されたプロセスが不透明。建設資材の高騰だけでなく、設計変更や追加工事の正当性に第三者のチェックが不可欠。
- ・ 業者選定と癒着の懸念：能力不足や「人間関係」による発注を疑う声があり、民間企業の感覚から乖離したコスト管理体制が批判の対象となっている。
- ・ 責任の所在：巨額の税金を投じながら、赤字や予算オーバーに対する市長・議員の責任が明確にされていない。

2. 事業内容の重複と「ハコモノ」批判

- ・ 立地の不合理さ：隣接する国営「木曽三川公園」と機能が重複しており、高額な遊具やバーベキュー場を市が独自に整備する必要性が極めて低い。
- ・ 季節性の限界：「ハス」という短期間の観光資源に依存した「東公園」の整備は、費用対効果が低い。
- ・ 維持管理費の増大：以前は収益で賄っていた管理費が、再整備後に年間 1 億円もの税金投入が必要となる計画は、持続可能性に欠ける。

3. 市民生活との優先順位の乖離

- 予算の転用希望：50 億円あれば、小中学校の老朽化対策、子育て支援、介護、社会的弱者への保障、水道料金の負担軽減など、より切実な市民生活の改善に充てられるべき。
- ・ 地域間格差：立田地区に投資が集中し、永和、佐屋、佐織、蟹江付近の住民にとって恩恵が薄い。「全市民が利用できる」ための公共交通（シャトルバス等）の整備が後回しにされている。

4. 安全性と防災機能への不安

- ・ 防災計画の脆弱性：南海トラフ地震等の災害を想定した際、避難所としての機能や備蓄、アクセスの安全性が不十分。「観光」よりも「命を守る」投資へのシフトが求められている。

5. 透明性と説明責任の欠如

- ・ 情報の周知不足：市の広報では不都合な真実が伝えられず、民報や外部資料で初めて実態を知った市民が多い。
- ・ 形骸化したチェック機能：市議会が市長の追認機関となっており、二元代表制が機能していない。第三者委員会による厳格な検証が必須。

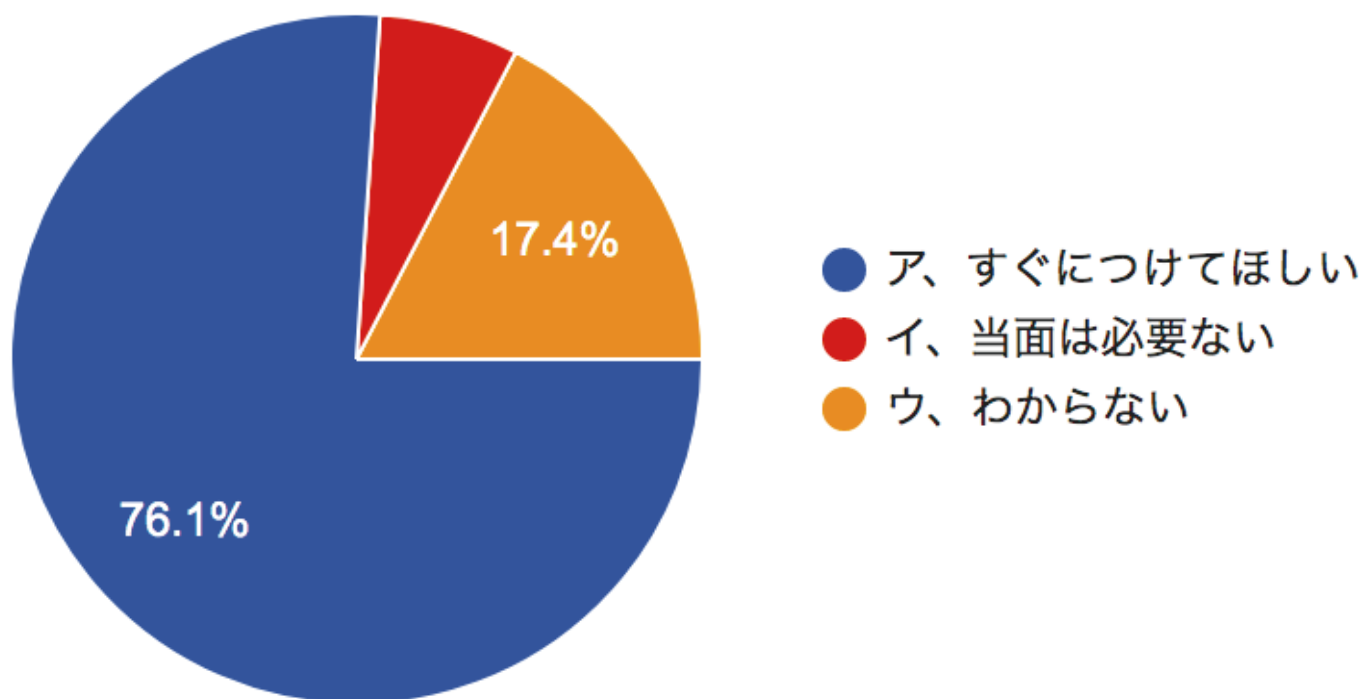
【結論：市民が求める今後】

- ① 徹底的な情報開示：50 億円の全内訳、指定管理者との契約詳細、収支シミュレーションの完全公開。
- ② 事業の縮小・見直し：今からでも遅くない無駄なハコモノ（特に公園部分）の縮小。
- ③ 受益の平準化：全市的な巡回バス路線の新設など、立田地区以外からも気軽に利用できる仕組みの構築。
- ④ 第三者検証委員会の設置：手続きの正当性と今後の損益見通しを、利害関係のない専門家が検証すること。

問5 教育施策について

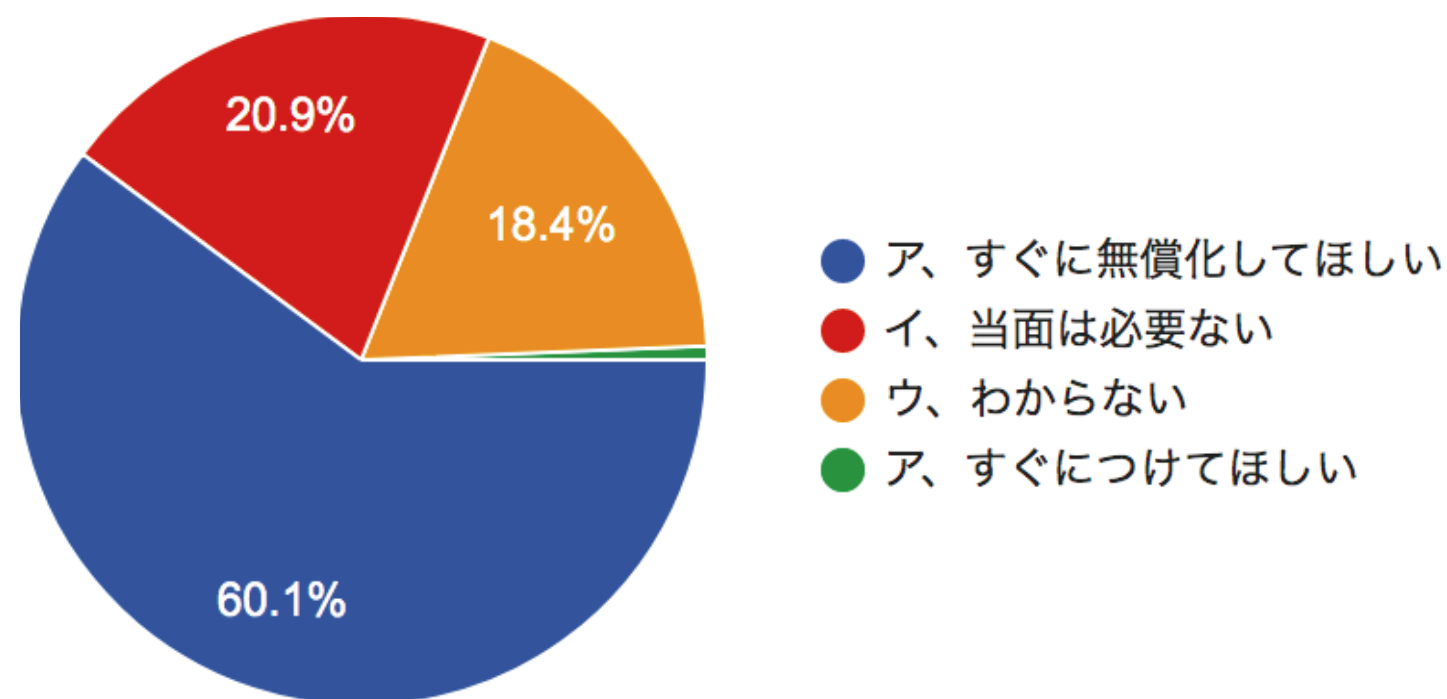
① 今年度から中学校体育館（改修予定の永和中を除く）に空調設備が置かれました。小学校体育館へも置くことをどう思いますか。

総数 322



② 小学中校給食の無償化についてどう思いますか。

総数 316



学校施設と給食無償化に関する市民の意見まとめ

1. 学校の統廃合と施設の近代化

市民の声からは「学校をすべてひとつにしてほしい」「子どもの数が減って合併が必要ではないか」との声がある一方、「若い人が転入してくるような政策を」求める声もある。切り捨てられる地域住民の声をリアルにつかむ必要がある。

老朽化については、昭和56年以前の基準で建てられた校舎や、雨漏り、使えない非常階段などは、子どもたちの命を守る上で「待ったなし」の課題です。「永和中にクーラーをつけてほしい」「佐屋中学校の雨漏り」「永和中学校の体育館を早急に改築して欲しい」など。

若い世代が愛西市を選び、住み続けてもらうためには、学校環境の整備は「コスト」ではなく「投資」であるという視点が欠かせません。

2. 体育館への空調設備（エアコン）設置

「夏場の体育館は命の危険がある」という声は、今や共通認識となっています。

必要性：熱中症警戒アラートで屋外活動が制限される中、体育館は唯一の運動の場ですが、空調がない状態ではそこも危険地帯となります。

避難所としての活用：災害は夏にも起こります。エアコンのない体育館では、避難生活そのものが健康を損なう原因となります。

計画：「順番に設置する」のではなく、リース契約の活用や、他市のようにガス式の安価な維持費の設備を導入するなど、スピード感が求められています。

3. 給食の無償化について

市民の間でも「完全無償化」と「所得制限・一部負担」で意見が大きく分かれています。意見の傾向
無償化賛成…子育て世帯の経済的負担軽減、差別（未払い等）の解消、将来への投資。

無償化反対…慎重財源の不安、給食の質の低下（しょぼくなる）への懸念、親の責任。

他自治体の成功事例（地産地消によるコスト抑制など）を研究し、納得感のある形が模索されています。

4. 予算の使い道と優先順位多くの声に共通していたのは

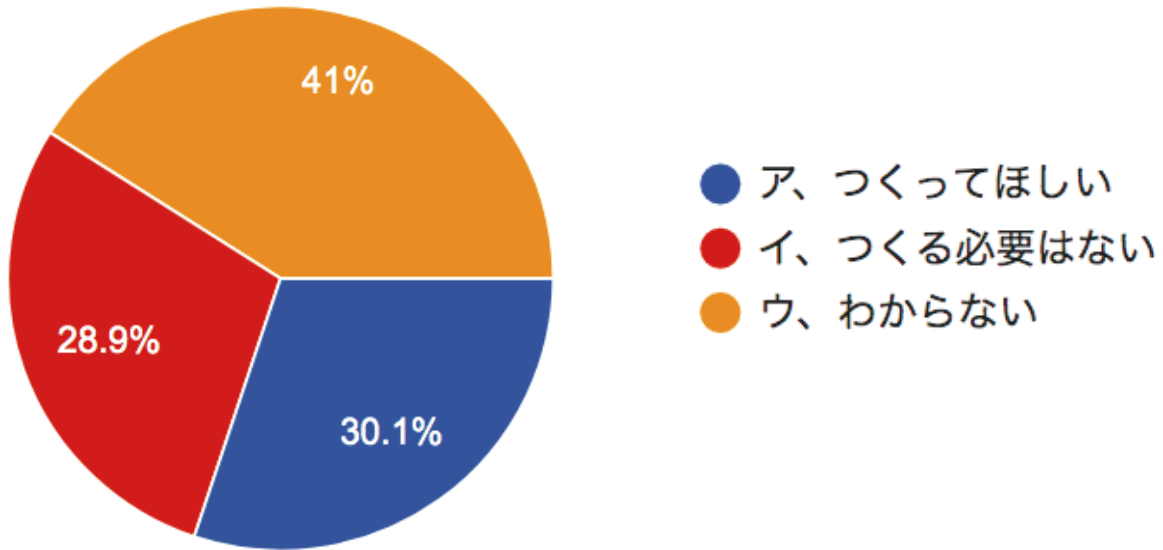
「道の駅や公園整備よりも、まず子どもたちの安全（学校）にお金を使ってほしい」

問6 鉄道駅の整備について

【佐屋駅】 佐屋駅周辺整備基本計画ができました。東側の乗降口の計画はありません。

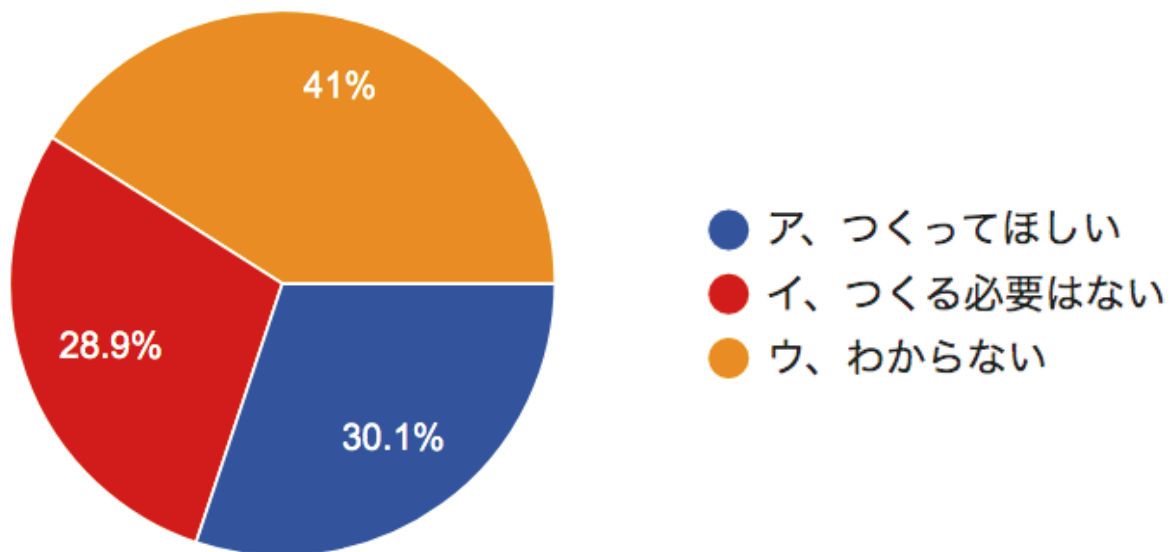
東側の乗降口をつくることをどう思いますか。

総数 245



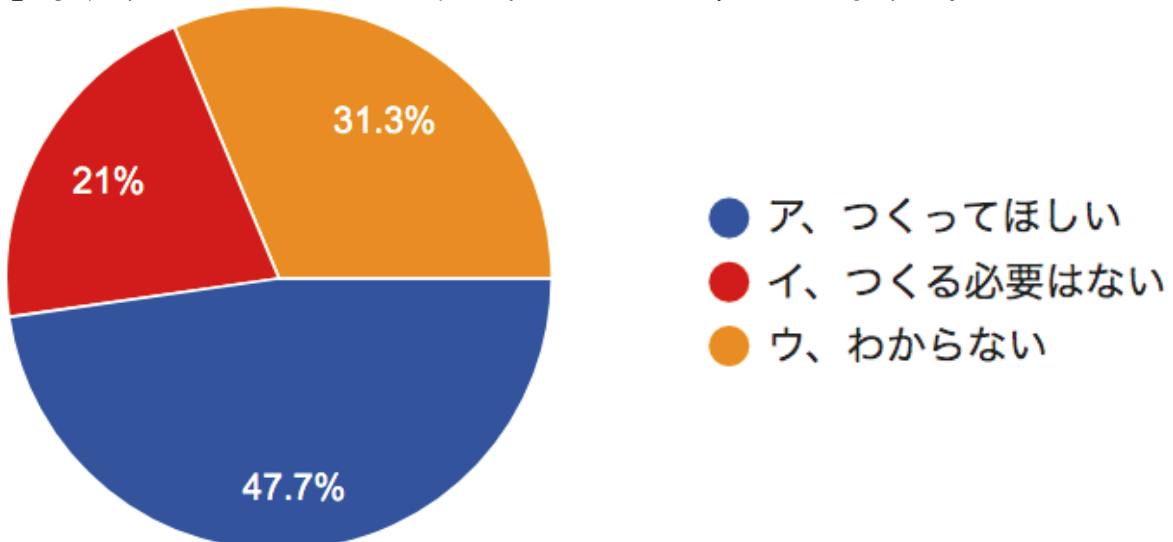
【日比野駅】 日比野駅の駅前広場を作ることをどう思いますか。

総数 239



【永和駅】 永和駅にエレベーターを設置することをどうおもいますか。

総数 243



1. 佐屋駅：東西アクセスと送迎の混乱

「踏切が開かず電車を目の前で見送る」「ラッシュ時の送迎車が旋回困難」という現状は、利便性だけでなく安全面でも限界に達しています。

東側改札の必要性：駐輪場や住宅地がある東側から直接ホームに入れるようになれば、踏切待ちによる乗り遅れや、無理な横断が解消されます。

駅前広場の再整備：現在のスペースと利用者数のバランスが悪く、雨天時の混雑は事故の危険を伴います。弥富駅のような、歩行者と車が分離されたスムーズなロータリー化が望まれています。

2. 日比野駅：狭隘なスペースと安全確保

住宅地と学校（津島高校など）が近く、通学・送迎の拠点となっているものの、インフラが追いついていない現状があります。

広場と待機スペース：「広場というよりは、車を待てる場所が必要」というご指摘の通り、路上での送迎待ちが渋滞や危険を招いています。

治安への配慮：整備にあたっては、夜間の溜まり場にならないような照明設置や見通しの確保など、防犯面でのランドデザインも不可欠です。

3. 永和駅：バリアフリーの「欠如」と北部アクセス

JR 永和駅に関しては、「発展途上国のような古さ」「バリアフリーの概念がない」という非常に厳しい、しかしもっともな声集中しています。

エレベーターの設置：「階段が昇降できない人は電車に乗るなど言われているようだ」という声は、公共交通機関として非常に重い課題です。高齢者がわざわざタクシーで弥富駅まで行くという現状は、早急に是正されるべきです。

北側改札と屋根：名古屋方面ホームに屋根がない、または短いため雨の日に濡れるという苦情も多く、北側からも乗降可能にすることで、踏切渋滞の緩和と利便性向上の両立が期待されます。

4. 市政への厳しい視線：「道の駅より駅を」

「道の駅の50億円という根拠の薄い予算があるなら、毎日使うインフラに回すべきだ」声多数

地域格差の解消：「佐織地区の駅（勝幡駅など）は綺麗になったのに、南部は置き去りだ」という不公平感があります。

人口流出への懸念：駅がボロボロで使いにくい街に、若い世代は住み着きません。「駅の整備はコストではなく、街の未来への投資」という視点が欠落していることへの苛立ちが伺えます。

今後の方向性についてのまとめ

命に関わる安全対策：永和駅のバリアフリー化（エレベーター）、佐屋駅・日比野駅の歩車分離。

利便性の向上：佐屋駅・永和駅の反対側改札の設置。

環境整備：雨天時の屋根設置、駐輪場の整理、街灯による防犯対策。

「弥富駅のようにしてほしい」という言葉には、単に新しくするだけでなく、利用者の動きに合わせた「使いやすさ」への期待が込められています。